

岐阜圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
1	変更	みどり病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 岐阜市東部の地域医療を担ううえで、在宅療養を続ける方が時々入院、ほぼ在宅といった地域での生活支援ができるよう入他院調整を実施。</p> <p>【課題】 現病院の各種設備の老朽化に伴い、2024年5月に新築移転予定。これまで課題であった個室の少ない部分を解消できるよう、個室を一定確保した。</p>	引き続き、地域の医療介護ニーズに応えること。とくに、地域の自治会や社協、介護施設からの多様なニーズに応えられるよう、懇談を重ね仕組みづくりを検討しています。	実施済み						○	2020年に急性期一般病床55床のうち18床を地域包括ケア病床へ転換したため。
2		近石病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 地域の救急から急性期、回復期リハビリテーション、慢性期療養、在宅までトータルな医療サービスの提供、かかりつけ医として最善を尽くしています。特徴といたしましては、外来を別棟とし通院治療を一層充実させ地域との共生・密着を第一に進めています。</p> <p>【課題】 病床再編を考えるにおいて改築が必要であります、建物の構造上困難なことが見受けられます。</p>	回復期を中心に在宅に力を注ぎます。	○							病床再編について検討中でございます。
3		医療法人 和光会 山田病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 地域における後方支援病院として、急性期病院からのサブアキュートの役割、地域で暮らす全ての人々が、急な病変などの受け入れに迅速に対応し、安心して暮らせる場所や社会資源の活用に対する提案、調整を医療・福祉・保健・子育てを通し切れ目のないサービス提供を目指している</p> <p>【課題】 ・地域における自院の機能、役割を広報誌し、知ってもらう。 ・相談から受け入れに対し、迅速に対応(待たせない) ・入退院前からの多職種による連携支援により地域での生活見据えた在宅支援体制の構築</p>	医療・介護・福祉・障害・子育てなど複合的なサービスを提供できる地域の暮らしを支える後方支援病院である。							○	現状の特徴の内容において、同様の役割が今後も必要であると考えため
4		関谷内科外科病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 届出入院基本料 療養病棟入院料2 平均在院日数 168.8 (令和4年4月～6月) 病床稼働率 97.5 (令和4年6月末) 職員数(R4.7.1) 医師2名・看護師16名・看護補助13名・他7名</p> <p>【課題】 医療従事者の安定的確保</p>	引き続き現状を継続							○	慢性期医療に対するニーズは高く、現在の医療機能を変更する必要はないと考える
5		山内ホスピタル	岐阜市	<p>【現状、特徴】 回復期病棟で消化器、運動器、脳機能障害などの疾患患者にリハビリテーションの積極的な介入。人間ドック・健診の予防医療に重点を置き早期診断・評価を実施している。</p> <p>【課題】 在宅復帰率の向上を目指して、リハビリテーションスタッフをはじめ多職種の協働体制や連携の強化を図るために、チームマネージャ制等の導入、多職種間での情報共有システムを検討。</p>	地域医療の要望に配慮するために今後より一層、医療連携サービス室の機能拡充を図りたい							○	病床稼働率を上げていく方策を検討中のため

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
6		岐阜大学医学部 附属病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 本院は2025年に向けての将来ビジョンを策定し、県内唯一の特定機能病院、地域医療機関との連携中核病院として「高度医療拠点としての機能強化と地域医療への貢献」「安心・安全な最高のサービスを届ける病院の確立」を目指し、5疾病5事業＋新興感染症はもちろんのこと、質の高い医療を追求するが、その他の領域についても高度な医療を追求している。</p> <p>【課題】 高度急性期医療を提供するにあたり、医療機器の新規導入や更新、さらに近年はIoTやAIなどの技術を活用したメディカルデジタルトランスフォーメーションによる大学病院のスマートホスピタル化が急速に推進されており、経営基盤の強化が課題である。</p>	地域医療構想において「岐阜大学医学部附属病院(高度救命救急、ドクヘリ基地、基幹災害拠点、がん県拠点等)が県全体の急性期医療の中心的役割を担い、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が、岐阜大学医学部附属病院と連携し、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う。」とされていることから、本院として、この方針に沿った役割を担う。			○				<p>地域医療構想に掲げられているが県全体の急性期医療の中心的役割を担うため、 H31.4 ゲノム疾患・遺伝子診療センターを設置 R3.4 岐阜県地域周産期母子医療センターに指定、成育医療センター設置 R3.4 循環器センター、炎症性腸疾患センターを設置 R3.11 岐阜県難聴児支援センターを設置 R4.4 手術棟開設、感染制御室、医療の質管理室を設置 するなど、引き続き高度医療拠点としての機能強化と地域医療への貢献を目指し、対応を進める。</p>
7		岐阜ハートセンター	岐阜市	<p>【現状、特徴】 1. 循環器専門病院として手術室:2室、ハイブリッド手術室:1室、カテ室:2室、心臓超音波検査室:4室、128マルチスライスCT:1台、心臓専用核医学診断装置:1台を有し高度急性期中心の医療を行っている(2021年病床利用率:79.8%、病床稼働率:91.8%)。 2. 5疾病に関しては循環器専門病院として確かな技術の提供に努め、県内有数の治療実績をあげている(2021年実績では急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞: 153件、PCI: 726件、Ablation: 517件、心臓・胸部大血管手術: 180件)。また、心臓弁膜症をはじめとする構造的な心疾患治療に対しても、従来の外科治療に加えカテーテル治療においても積極的に行っている(2021年実績では経カテーテル大動脈弁留置術: 81件、経皮的僧帽弁クリップ術: 13件、経皮的左心耳閉鎖術: 9件等) 3. 5事業に関して循環器救急においては24時間、365日断らない体制を整備(届出入院基本料7:1、常勤医師は循環器内科医:14名、心臓血管外科医:5名、麻酔科医:2名)するとともに、遠隔地からのドクターヘリ、防災ヘリの受け入れも積極的に行っている(2021年救急車:578件、ヘリ搬送:21件)</p> <p>【課題】 1.急性心筋梗塞に対する体制の向上 ・Door to balloon timeの短縮、かかりつけ医との連携によるOnset to balloon timeの短縮および定期フォロー(予後改善、QOLの向上と再発予防) 2.慢性心不全の急性増悪に対し循環器専門病院としての対応力向上 ・心不全の原因疾患に対して、エビデンスに沿ったより積極的な治療介入 ・地域連携パスを用いてかかりつけ医との連携を強化、定期的な専門医によるフォロー(QOLの維持・向上、急性増悪予防) 3.足の循環器疾患症例に対しtotal vascular care ・後方連携の強化、地域全体への教育と啓蒙</p>	急性の循環器疾患(急性心筋梗塞、大動脈解離等)に対し、24時間体制で受け入れ、緊急カテーテル治療や手術可能な体制を整備するとともに、術後においても集中的な看護、積極的なリハビリ、栄養、服薬指導による、患者様の予後改善、退院後のQOL向上につとめる。また、虚血性心疾患治療のみならず、構造的な心疾患、不整脈、閉塞性動脈硬化症などの循環器疾患に対しても、従来の外科的手術治療に加え、最先端のカテーテル治療介入を積極的に行っていくとともに、より質の高い循環器医療を通じて地域に貢献していく。また、心不全パンデミック対策においても地域のかかりつけ医らと連携して、治療後のフォローアップをしっかり行うことにより、地域を上げて繰り返す再入院対策に取り組む必要があると考えます。					○	<p>従来の虚血性心疾患や大血管疾患、不整脈治療のみならず構造的な心疾患患者に対しては、外科的手術治療に加え、経カテーテル大動脈弁留置術経皮的僧帽弁クリップ術、経皮的左心耳閉鎖術、経皮的な中核心筋焼灼術等最先端のカテーテル治療介入を積極的に行っていくため心臓カテーテル室を増設するとともにハイケアユニットを稼働させ、より質の高い循環器医療を通じて地域に貢献していく。心不全パンデミック対策においても地域のかかりつけ医らと地域連携パス等を運用して患者や家族に再発予防教育を含む取り組みを実施していく。</p>	
8		医療法人生友会 柳津病院	岐阜市		未回答							

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
9	変更	岐阜市民病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜市立の公立病院として地域の医療を支える役割を担う当院は、関係機関と連携して市民のニーズに応え、小児医療、精神科医療を含む幅広い医療を提供するとともに、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う病院として、専門的な手術、がん医療などの先進的かつ高度な医療や救急医療を提供している。 また、当院は災害拠点病院の指定を受け、災害時における救命医療を提供する機能を整備している。 診療実績(令和4年度) <ul style="list-style-type: none"> 入院延患者数 163,741人 ・外来延患者数 308,892人 平均在院日数 10.7日(一般)・救急搬送患者数 5,936人 職員数(令和5年4月1日現在) 1,402人 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢化に伴い増加する重症患者への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・医療提供体制の強化(救急診療・手術実施体制) ・手術室や高度治療室(重症患者管理病床など)の不足解消 ○人材の確保・育成 <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化に伴う働き手の減少を見据えた計画的な職員採用 ・診療機能を維持・向上するための専門職の計画的な育成 ○医師・看護師など医療技術職の働き方改革 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の業務負担の軽減と医師の時間外勤務上限規制への対応 ○地域の医療機関等との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大で減少した紹介患者の受け入れ拡大 ・円滑な転院調整等による在院日数の適正化 ○医業収支の改善 	公立病院として、小児医療、精神科医療を含む幅広い医療ニーズに対応するとともに、岐阜圏域の急性期医療を担う病院として、職員の充実を図りながら、救急搬送患者や重症患者の増加に対し、専門的な手術、がん医療などの先進的かつ高度な医療や救急医療を提供していく。また、災害拠点病院としての機能を整備し、自然災害や新興感染症の感染拡大等に対応していく。						○	人口推計によると、岐阜圏域における65歳以上の高齢者数は今後も増加することが見込まれている。現状で年間の救急車搬送患者の受入人数がおよそ6,000人に迫り、また、一般病棟の稼働率が90%を超える状況において、公立病院として、また急性期病院として今後も地域に必要な医療を提供するためには、現状の機能を維持する必要があると考えている。
10	変更	独立行政法人国立病院機構長良医療センター	岐阜市	<p>【現状、特徴】</p> <p>呼吸器疾患(結核を含む)は、呼吸器系腫瘍、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息などについて取り組んでおり、肺癌手術、化学療法、放射線治療も行っている。がん疾患については、緩和ケアとして、令和5年1月10日より緩和ケア病棟を開棟し、呼吸器系以外のがん患者も受け入れている。</p> <p>神経筋疾患(筋ジストロフィーを含む)・重症心身障害等を有する障がい児(者)はショートステイから長期入院まで幅広く対応している。</p> <p>【課題】</p> <p>結核病床を30床有していたが、令和4年度の結核1日平均患者数が11.6名という状況であり、全国、岐阜県の動向を見ても、患者数は年々減少傾向にあることから、岐阜県との調整により令和5年10月1日より18床に削減した。今後は更なる効率化を図るためモデル病床化を検討している。</p>	急性期機能(肺がん患者等)を活かしつつ、他の医療機関で実施していない、結核、筋ジス・重心といった慢性期機能をしっかりと担っていく。また、近隣急性期病院の充実度、緩和ケア医療のニーズなどを踏まえ、令和5年1月10日より緩和ケア病棟を開棟した。今後、回復期系の機能を更に充実させる方針である。	実施済み	実施済み					令和5年1月10日より、中央4階病棟(急性期45床)を緩和ケア病棟(回復期18床)に転換した。また、結核患者数の減少に伴う結核病床数の見直しを行い、令和5年10月1日より30床を18床に削減した。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
11	変更	Y&M藤掛第一病院	岐阜市	【現状、特徴】 医療療養病床として、慢性期の患者様の受け入れを行っております。特に事情があり介護施設に入れられない方の受け入れを行っております。 【課題】 医師・薬剤師・看護師・介護職員と少ない人数で行っている為、どうしても人数的に限界があり、たくさん受け入れる事が出来ない。職員の数を増やす事が課題である。	現在と同じ慢性期を担う予定である。特に介護施設・自宅等で看る事が出来ない患者様の受け入れを行っていく。						○	医師・看護師・薬剤師・介護職員等、人員の確保が出来ないため、最低限の事しか出来ない。
12	変更	医療法人慶睦会千手堂病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域包括ケアシステムを担うため、地域包括ケア病床の増床を行った。また、常勤医全員が在宅診療を行い、在宅からの入院患者の受入れを積極的に行っている。 【課題】 常勤医の高年齢化。地域の訪問看護ステーションや施設との情報共有をもっと密に素早く行いたい。	2022年末に病院移転を行い、より地域医療に貢献できる体制をとる。地域のクリニック医師や訪問看護師、ケアマネジャーと連携し、医療圏の中心としてコンシェルジュ的な役割を担う所存です。当院にない診療科は積極的にクリニックを紹介するシステムを構築したいと考えています。	実施済み						令和5年8月1日 地域包括ケア入院管理料20床転換済み
13		城南病院	岐阜市	【現状、特徴】 様々な事情により、介護施設や家庭などで受け入れることが困難な方の終末期の療養や看取り 【課題】 地域包括ケアシステムとの連携が図りづらく、存在意義や活用の状況が理解されづらいため病床がうまくいく、施設維持が困難	引き続き様々な事情により、施設や家庭で受け入れる事が困難な方の終末期の療養や看取りを担う施設としての存在						○	病床機能等を見直すにはたいへん大きなコストがかかり、現実的ではないため。
14		医療法人社団幸紀会安江病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域のかかりつけ病院として、外来・入院による医療サービスの提供に加え、高齢者への訪問診療にも力を入れています。また、関連する施設(老健、特養など)と協力して、患者の状況に応じたサービスの提案ができるよう努めています。 【課題】 ・回復期にシフトした病床運用下を想定した収益構造の構築 ・DX化の推進 など	訪問診療の強化	○						回復期体制の拡充
15		医療法人社団永寿会大橋整形外科病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域に密着した医療機関として病院内に介護医療院・介護老人保健施設を併設し医療、介護を含めて地域に貢献していく事に重点を置いている。 【課題】 整形が主な診療科目であり内科診療が弱く外部医師に託しており今後、自医専属の内科医師の雇用が必要。	現状、特徴を維持していく						○	現在、慢性期の病床機能として運営しているが、急性期の病院での入院期間は1~2週間と短くリハビリ等にて在宅復帰の機能を有しておらず、現状において急性期病院からの術後の在宅復帰に向けてのリハビリ目的での転院依頼が多数あることから、今後も現在の病床機能と病床数にて継続して運営していく方針である。
16		医療法人社団双樹会 早徳病院	岐阜市	【現状、特徴】 現状の許可病床数は、一般病床(地域一般3)の病床40床及び療養病床(療養病棟1)の病床60床。これらの他に透析ベット数55を有し、かつ透析患者の送迎手配も整え、地域の透析需要に対応させているのが特徴。また、令和2年7月から訪問看護(みなし)を開始し、現在は訪問リハビリも行っている。 【課題】 上記の通り、一般病床の施設基準は地域一般3を算定している。そのため、国の施設基準への対応を把握しながら、現状維持に努めることが課題と捉えている。	①透析病院として、地域の透析需要に更に応えることが出来る様、体制を整えていくことが役割と捉えている。 ②地域医療構想の進展状況を把握しながら、役割分担には協力していけるように図っていくことが役割と捉えている。						○	現在の許可病床数100床の存続を選択したい。また同時に国の施設基準への対応を把握しながら、現状維持が出来る様に、体制確保に努めたいため。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
17		河村病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 当院は、脳神経内科を主とする病院で、救急搬送を含む緊急入院や、在宅および介護施設等からの初期医療を必要とする患者の受入を、DPC算定病床である急性期病床で行っている。また、大学病院や公立自治体病院等の急性期治療の後方支援機能として、回復期、慢性期病床も併せて有するケアミックス病院である。この他に、同法人内で介護老人保健施設等の介護施設を有し、訪問診療・訪問看護、介護等の在宅医療及び在宅介護事業など、一貫貫した患者ニーズに対応可能な、地域に必要とされている役割を担っている。</p> <p>【課題】 ・建物の老朽化による建替え(大規模改修) ・医師をはじめとする医療従事者の確保 ・電子カルテの導入</p>	引続き現状担っている役割を継続していく						○	現状・特徴に記載している同様の役割が今後も必要と考える為
18		笠松病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 「Be Best For People」をモットーに、急性期医療から慢性期医療と介護・福祉を総合的に提供し、地域に密着した医療活動を行っています。また救急指定病院として周辺の救急患者様を24時間365日体制で受け入れています。救急車受入れ台数についても年間800~1000台近くを受け入れております。</p> <p>【課題】 昨今では新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対応する看護師たちにも多大な業務負荷が掛かってきております。今後の高齢化社会やコロナ禍においても、地域のかかりつけ医として充実した医療を継続して提供できるように、職員の確保が課題となっています。</p>	迎える超高齢化社会の中で、周辺の診療所とも連携を取りつつ、当院のケアミックス病院である特徴を活かし、今後も患者の状態に合わせ、手術から術後のケア、急性期から回復期療養、看取りまで一貫して行い、今後も地域の方々が気軽ににかかる事ができる病院を目指しています。地域のクリニックからの急な入院加療に対応する事で地域の皆様に貢献していきます。						○	今後も継続して、地域の方々が気軽に来院できる「入院まで出来るかかりつけ医」として、当院がやるべき医療を提供していきます。
19		岐阜赤十字病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 令和4年度は一般病床の稼働率80%超・紹介率79.7%・逆紹介率102.9%とコロナ以前より増加し、地域医療支援病院としての役割が大きくなっている。また、感染症指定医療機関として新型コロナ感染症患者を4,831人受入れた。</p> <p>【課題】 現在新型コロナ感染症患者の受入に1病棟を使用しているため、一般病床の稼働が高いレベルで安定しているが、収束後が未知数であることや将来的な医師の確保が課題である。</p>	2025プラン策定時から変わらず災害拠点病院や感染症指定医療機関としての役割が果たせるように高度急性期や急性期病院の機能を維持しつつ、地域医療支援病院として在宅治療や地域包括ケアシステムを活用して地域福祉に貢献する。						○	一般病床稼働率・紹介率・逆紹介率の全てにおいて2025プラン策定時を超えており想定していた以上の役割を果たしていると考えている。また、2025プランでも言及した感染症指定医療機関として多くの新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行った。さらに、今年に入っては救急車の受入件数も増加しており、救急医療の分野でも地域医療支援病院としての役割が増大している。
20		医療法人社団 誠広会 平野総合病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 急性期入院患者への在宅アプローチとして地域包括ケア(在宅復帰率80%)退院後、必要に応じて在宅サービスの提供実施</p> <p>【課題】 急性期、地域包括ケア及び慢性期(医療療養病棟)以後退院先の提供が困難を生じている。</p>	在宅部門(訪問診療、訪問看護、リハビリテーション等連携体制、有料老人ホーム開設)推進						○	一般病床85床、地域包括ケア52床、医療療養病床48床 現状維持(理由:地域医療の特性として、高齢患者の占める割合が大きく、在宅復帰から在宅診療、訪問看護、リハをシームレスに行うため、地域包括及び療養病床の体制確保が継続的に現状必要のため)

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
21		操外科病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療実績 急性期一般入院基本料6(35床 1病棟のみ)、人工腎臓装置 2設備 45台 救急病院(外科) 職員数 医師 常勤4名 非常勤6名 看護職員 常勤26名 非常勤6名 臨床工学技士 常勤9名 非常勤1名 理学療法士 常勤4名 薬剤師 常勤1名 診療放射線技師 常勤1名 管理栄養士 常勤1名 その他 常勤38名 非常勤13名 特徴 4機能のうち、急性期機能が中心 担う政策医療 がんの療養機能 脳卒中の回復期機能 糖尿病合併症に対する専門治療機能(人工透析) 救急告示医療機関 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる病院として、「5疾病」の中の、がん、脳卒中、糖尿病の患者のほか、様々な疾病の患者の受け入れ。 地域の高齢者等の、比較的軽度の疾病に関する入院治療。 在宅診療を行う医療機関(自院も含む)からの、24時間対応による後方支援病院としての入院患者の受け入れ。 救急告示医療機関としての入院患者の受け入れ。 透析施設を有する病院としての入院患者の受け入れ。 <p>等、様々な入院患者を1病棟35床で受け入れている現状について、また開設以来38年の建物についても当院の役割を再検討した上で何らかの対策が必要。</p>	<p>「1. 自施設の現状等」の「課題」で記したとおり、</p> <ul style="list-style-type: none"> 急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる病院として「5疾病」の中のがん、脳卒中、糖尿病の患者のほか、様々な疾患の患者の受け入れ。 地域の高齢者等の比較的軽度な(急性期も含む)疾患に関する入院治療。 救急告示医療機関として、大病院のみでは対応しきれない入院患者の受け入れ。 在宅診療を行う医療機関(自院も含む)からの、24時間対応による後方支援病院としての入院患者の受け入れ。 透析施設を有する病院としての入院患者の受け入れ。 <p>等、様々な入院患者に対応すべく急性期医療の提供体制を1病棟35床で維持していく。</p>					○		急性期一般入院基本料6の病棟において地域包括ケア病棟入院料(医療管理料)を算定する病床への転換を検討中。
22		医療法人社団志朋会加納渡辺病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】</p> <p>急性期病院および在宅支援病院としての機能を発揮できるベッドコントロールを行っている。近隣の診療所や介護施設からの入院も多く、日常的に介護分野との連携も多い。</p> <p>【課題】</p> <p>近隣には一般救急を受け入れる病院が少ないため、今後も中度・軽度の救急患者の受け入れが続く。急患や入院は主に高齢者であるため簡単に退院することが困難なケースが多く、在院日数の増加につながる傾向にある。急性期医療への理解を求めることも重要となってくる。</p>	<p>高度急性期病院では対応しきれない救急患者の受け入れを強化する。医療依存度が高く在宅療養が困難な患者等へのサポートを入院から在宅まで一貫して行う。</p>						○	岐阜駅から南は、救急患者の受け入れを行う医療機関が不足しており、岐阜市民病院や県総合医療センターでは対応しきれない救急患者の受け入れ強化、また亜急性期医療の受け皿としての立ち位置が今後も求められると思われます。この地域の急性期医療を守っていく役割を担う必要性があると考えます。
23		岐阜清流病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】</p> <p>地域包括ケアシステムのなかで、岐阜大学医学部附属病院、岐阜市民病院等の急性期治療後の後方受入病院、開業医および介護施設からの初期医療を必要とする患者の受入れ、岐阜市の輪番制(二次救急)等による救急患者の受入などの医療を提供。</p> <p>【課題】</p> <p>医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の要員の確保。</p>	<p>高齢者の増加に伴い、高齢者がかかりやすい肺炎、脳梗塞、心不全、股関節・大腿骨近位骨折などの疾患が増加することが予測されることから、高度急性期治療後のリハビリテーション体制を主体とした医療機能が必要である。また、法人内の連携を含めて、地域での医療・介護・リハビリの総合施設として地域の開業医および介護事業者などと連携を深め、ポストアキュート及びサブアキュートの受入れ体制を維持する。</p>	○	○					現在休止している一般病床55床(西2階)について、急性期病床から回復期病床(48床)への転換を予定している。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
24		操レディスホスピタル	岐阜市	<p>【現状、特徴】 産婦人科病院としての施設を生かし、生殖補助医療(男性不妊含む不妊治療)、無痛分娩実施施設、その他婦人科健診等、地域住民に必要不可欠なサービスを提供する。</p> <p>【課題】 分娩施設減少に伴い、分娩、婦人科系患者の診察に対応できるだけのスタッフ確保。</p>	さらに少子化が進み、より精度の高い不妊治療の実施と、安全な分娩、妊婦様に今までにない分娩スタイルを提供できるようにする。							○	一般急性期病床で32病床数で問題ないとする。
25		岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター	岐阜市	<p>【現状、特徴】 ・手足や体幹等に障がいのある18歳未満の児童を対象に手術、リハビリ、入所による生活支援に加え隣接する特別支援学校への通学も含めた療育を行っている。</p> <p>・増加している子どもの発達障がい及びその二次的な障がいの診断、評価を行い、障がいに応じたリハビリやカウンセリングを提供している。</p> <p>【課題】 ・高度な医療的ケアが必要な超重症児・準超重症児の支援ニーズが高まっているが、施設面、人的面などを理由に十分に対応できず入院につながっていない。</p> <p>・発達障がいに関する予約件数が増加しているが、初診までの待機日数が長くなっている。</p>	<p>・児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設として、医療・福祉の多職種な人材を活用し総合的な療育を提供していく。</p> <p>・ニーズの高い発達障がいのある患者の初診待機を解消するため、小児科、児童精神科医師の確保、初診枠の拡大を図る。</p>		実施済み						病床稼働率の現状及び将来見込みを踏まえ、病床数を令和4年4月1日付けで10床減少した。(53床→43床)
26	変更	朝日大学病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 地域中核病院として急性期から回復期までの機能を有しており、急性期においては内科、外科のほか、脳神経外科、歯科においても当直体制を敷いている。回復期機能としては回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病棟を有している。そのほか、血液浄化センターとして許可病床とは別に40床を有するほか、歯科の二次医療機関であり、総合健診センターにおける予防医学にも注力している。</p> <p>【課題】 本院の特徴をさらに活かしていくためには、救急外来、手術室が老朽化、狭隘化している等の問題があり、これの抜本的改善が必要である。また、検査関係の機器更新、狭隘化への対応も喫緊の課題である。さらに歯科医師臨床研修において20名の研修歯科医を受け入れているが、そのための施設設備の充実がさらに必要である。</p>	交通の要所である岐阜駅近接の二次救急病院としての責務を果たす一方で、今後高まる回復期機能の充実を図る。また、糖尿病、整形、脳卒中の特色ある分野の他、総合健診センターにおける予防医学へのさらなる貢献と、加えて、増加する透析患者への医療提供を確実に進めていく。これらのために、新興感染症への対応も視野に入れた施設計画を策定中である。	○	○	○					現在抱える課題を解決するには現施設では対応できないため、2027年竣工を目指して新棟建築の計画を策定中で、この中において、(高度)急性期病床の一部を回復期機能に一部転換することを検討課題の一部としており、長期的には病床数の見直しも視野に入れている。現在整備が進みつつある一次脳卒中センターへの対応も進めている。
27		岩砂病院・岩砂マタニティ	岐阜市	<p>【現状、特徴】 現在当院は「周産期医療(1.5次)」および「地域急性期」「回復期」の機能を担っている。</p> <p>【課題】 ・産前産後のサポート体制の強化 ・サブアキュート機能の強化</p>	医師のみならず看護師、リハスタッフや管理栄養士などがそれぞれの専門性を活かし、在宅療養者(在宅に類する施設の入居者含む)を支えるための機能を強化する必要があると考えている。							○	現状と、地域ニーズを踏まえたうえでの今後の担うべき役割に、大きな乖離はないと考えているため。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
28		岐阜県総合医療センター	岐阜市	<p>【現状、特徴】 【理念】県民の皆様方に信頼され、患者さん本位の安全で良質な全人的医療を提供します。 【施設状況】ICU8床、PICU6床、NICU15床、MFICU6床 【職員数(常勤)】医師199名、看護師752名、その他専門職281名、事務79名 【特徴】高度急性期及び急性期病床を中心とし、救急、がん、循環器、周産期、小児、災害医療を重点医療とした医療を提供 【課題】 ・救急、がん、循環器、周産期、小児、災害医療を重点医療とする質の高い急性期医療の提供 ・回復期、慢性期を担当する病院、在宅医療機関との連携、機能分化の確立 ・重症心身障がい児入所施設の運営 ・(医師の)働き方改革への対応</p>	岐阜地域の基幹病院として、近隣の医療機関との役割分担・連携の下、高度・先進医療、急性期医療、政策医療等の県民が必要とする質の高い医療を提供する。						○	当院の半数以上を占める65歳以上の岐阜県内の人口は、当面の間60万人前後で推移することから、現状の病床数は必要と考えられるため。
29		医療法人社団 慈朋会 澤田病院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 急性期病院からの透析やリハビリ目的等の患者さんの受け入れを主に行っている。 【課題】 軽度の吸痰や経管栄養を行っている患者さんを受け入れてもらえる施設が少ないため、転院先に苦慮している。</p>	今後さらに、中長期的に入院が必要な透析患者さんの受け入れや、リハビリ目的のための回復期にも積極的に取り組み、急性期病院からの受け皿としての役割をより一層果たしていく。	○	○					急性期6床減、慢性期64床減、回復期40床増に転換し、総計30床を削減する。 2022年8月頃、病院増改築工事着工予定 2025年4月頃、完成予定
30		羽島市民病院	羽島市	<p>【現状、特徴】 羽島市内唯一の病床を有する医療機関として、救急機能・急性期機能の役割を担い、回復期機能についても市内の診療所や介護施設との連携を推進して、在宅療養後方支援病院としての役割を果たしている。 【課題】 現状の救急医療体制並びに診療科体制の維持</p>	羽島市内唯一の病床を有する医療機関として、岐阜医療圏南部地域及び近隣も含む救急機能・急性期機能の役割を果たしていく。加えて、今後更に増加するであろう回復期機能について、早期からの入退院支援、市内の診療所や介護施設との連携を推進して、在宅療養後方支援病院としての役割を強化していく。	実施済み					○	令和2年度に急性期病床36床を回復期病床に病床機能変更し、急性期病床178床(4病棟)を132床(3病棟)、回復期病床76床(2病棟)を112床(3病棟)とした。 なお、新興感染症等への対応を踏まえた病床利用について再検討する必要があるため、現状を維持する。
31		東海中央病院	各務原市	<p>【現状、特徴】 地理的に急性期医療を要する病院として、救急医療、脳卒中、心血管疾患、整形疾患への対応を中心とした急性期医療の提供体制を維持しつつ、同時に地域における回復期機能、終末期医療の中核としての役割を果たす。 【課題】 地域医師会や開業医との連携推進や市の行政や地域福祉との連携を行っているが、患者や市民サービスについて、更なる向上が求められている。</p>	引き続き、地理的に急性期医療を要する病院として急性期医療の提供体制を維持しつつ、同時に地域における回復期機能、終末期医療の中核としての役割を果たす。また、地域医師会や開業医との連携推進や市の行政や地域福祉との連携を継続し、患者や市民サービスの向上に努める。	実施済み	実施済み					① 2022年4月に回復期(人間ドック病床)15床を慢性期(緩和ケア病棟)に転換した。 ② ①の通り、回復期を15床減床し、慢性期を15床増床した。 ①、②の理由として、緩和ケア病棟(15床)での稼働率が高かったことを踏まえ、緩和医療ニーズが今後も増加すると見込み緩和ケア病棟(30床)とした。
32		各務原リハビリテーション病院	各務原市	<p>【現状、特徴】 地域の医療ニーズの増加に伴い、令和4年4月に病院併設の介護老人保健施設を介護医療院に転換するなど、医療と看護・介護・リハビリテーションの総合的な提供に向け努力しております。 【課題】 医療需要に応じた病床機能の見直し及び高齢世帯増加に伴う多様な種類の高齢者向け住まいの充実強化が課題です。</p>	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、「自立支援」「認知症ケア」「ターミナルケア」を3本の柱とした「その人らしい生活の実現」に向けた取り組みを強化します。	○						患者の需要に応じた適切な医療が提供できるよう、回復期リハビリテーションの増床や地域包括ケアへの転換など病床機能の見直しを計画しております。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
33		医療法人 秀幸会 横山病院	各務原市	【現状、特徴】 肺炎、心不全等の軽～中等症患者に対する入院加療と、認知症やその他の慢性疾患によりADLの低下した患者に対するリハビリ及び入院加療。 【課題】 介護療養病床の廃止に伴い、介護医療院への病床転換を予定している。	地域における、かかりつけ医としての役割と在宅療養が困難な患者に対する入院治療の提供。					○		介護療養病床の廃止に伴い、介護医療院への病床転換を予定している。	
34		各務原病院	各務原市		未回答								
35	変更	岐阜県厚生農業 協同組合連合会 岐阜・西濃医療セ ンター岐北厚生病 院	山県市	【現状、特徴】 施設整備事業に伴う病床再編により、総病床は316床から284床へ減床しています。再編後の病床は効率的に運用しており、岐阜県からの要請に応じた新型コロナウイルス感染症に対応する病床を確保しています。 病床機能としては、必要な急性期機能を有した上で、回復期、慢性期及び在宅医療等に積極的に取り組み、各医療機関及び介護施設等、関係機関と連携することで圏域北部において、切れ目のない医療機能を担う病院としての一翼を担っています。 【課題】 ①常勤医師及び医療従事者の確保について 令和5年11月現在、常勤医師は23名で、常勤診療科は内科、外科、整形外科、泌尿器科及び放射線科となっています。その他の診療科は非常勤医師で対応しており、救急医療と診療体制の更なる充実に向けて医師確保が必要です。 また、薬剤師、看護師、看護補助員等の不足している要員の確保が必要です。 ②働き方改革への対応について 医師を始めとした医療従事者等の時間外労働等が社会問題化していることから、本院においても救急医療を安定的に担う上で更なる医師確保と働き方の見直しを検討する必要があります。	総病床284床を262床へ削減するとして計画し地域医療構想等調整会議の承認を得ていますが、今後の新興感染症等の需要の動向を見据えて、削減時期を再検討する必要があります。 限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があります。今後、更に高齢者の比率が高まるなか、地域の医療需要に応えるため、地理的要因により急性期から回復期、慢性期医療まで中核的役割(中核病院)を担います。	実施済み	実施済み	○	実施済み		①②病床機能・病床数の見直しは、令和3年度に実施し32床減床した。また、2025年に向け病床機能(回復期)の病床数の見直しを予定している。 ③令和6年4月から準無医地区に巡回診療を行う予定としており、へき地医療拠点病院として県に申請した。 ④本会の中でセンター化し、医師及び医療従事者を必要時に相互派遣している。		
36		愛生病院	笠松町	【現状、特徴】 高齢者医療を中心に、地域医療・福祉に貢献する。高齢者が住み慣れた自宅や町で穏やかに住み続けられるようにリハビリテーションを重視している。ただ、ターミナル期の患者さんが多いのも事実で、人生の最期を安らかに迎えることができるような病院運営を心がけている。 【課題】 看護師は言うに及ばず、看護補助者の人員不足が著しい。そのため将来的に現在の規模を維持していけるかは不透明。また、超高齢化社会に伴い患者さんの状態像も重体化しており、ターミナル期への更なる対応が必要だと考える。	地域としては今後も高齢化に伴う対応が強まると考える。一般病院から退院した患者さんが自宅に帰るまでに重症化しないように、身体的、社会的なサポートをすることが当院が果たすべき役割の一つである。					○		平成30年に病床を減床しており、現在はこれ以上病床を減らす予定はない。	

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し					
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持
37		松波総合病院	笠松町	<p>【現状、特徴】</p> <p>○当院の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院は、高度急性期病棟・急性期病棟・回復期病棟・慢性期病棟の複数の機能をもつ病棟のある「ケアミックス病院」である。 ・病床数は501床あり、複数の機能のうち、高度急性期病床・急性期病床で約7割弱を占めており、地域に高度な医療の提供を行っている。 <p>○当院の職員数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員数は、常勤者、非常勤者を合わせると1,400名を超える(2023年5月1日時点)。 そのうち、医師は約160名(研修医含む)、看護職員は約500名(非常勤含む)おり、高度な急性期医療を安全に提供できる体制を確保している。 <p>○当院における医療提供と総合的質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2006年度からBSC(バランスト・スコアカード)やQC(Quality Control)活動を各部門、部署で行い、さらに2017年6月にQSR(Quality Surveillance and Recommendation)を開始し、当院の医療の質の向上に努めている。その結果として、平均在院日数や病床稼働率は高水準を維持することが出来ている。 *平均在院日数:11.75日(2022年度) *病床稼働率:89.65%(※コロナ病床を除く)(2022年度) ・届出入院基本料(特定入院料含む)は、6つの施設基準の届出を行っている。 *急性期一般入院料1 *障害者施設等入院基本料(10対1) *特定集中治療室管理料1 *ハイケアユニット入院医療管理料1 *回復期リハビリテーション病棟入院料1 *地域包括ケア病棟入院料2 <p>○当院の担う政策医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5疾病・5事業については、各診療科が垣根を越えて連携体制を敷いており、チーム医療として提供している。 ・5疾病・5事業と在宅医療に関しては、すでに地域と連携を行っているが、精神領域の疾患、特に認知症に関しては、入院患者だけでなく、地域におけるケアを中心となって行っていく体制を構築している。 ・救急医療において、開設以来24時間365日救急患者を断らないことをモットーに羽島郡のみならず、岐阜市南部、羽島市、各務原市および県外である愛知県一宮市の救急隊からの救急要請に対応し、地域の救急医療体制の維持に貢献している。また、2017年10月より救急科の標榜や救急ワークステーションを実施し、「ドクターカー」などで医療が現場へ出ていく体制を整え、迅速な救急医療の提供に務めている(2021年度:20件、2022年度:38件)。当院のメディカルコントロール(以下、MCとする。)体制は、岐阜地域MC協議会の下部組織として設置しており、院内だけでなく笠松町、羽島郡医師会、羽島郡広域連合消防本部からも協議会委員を任命している。現時点では、岐阜南地区で活動を実施しているが、より広い地域での活動を目指している。その他に病院救命士における、緊急車両や救急外来での活動に対する教育システムやOSCE(客観的臨床能力試験)形式の実技研修、活動記録及び事後検証の仕組みを当MCで担保している。MC責任医師は専任の救急科医師が担当しており、病院救命士活動時の指示出しや質の担保は、対面やオンラインで実施している。またWEBカメラを利用して遠隔でも質の担保を行うシステムを有している。 ・地域の高齢者の骨折や誤嚥性肺炎に対して、専門的な知識を持つスタッフによるチーム医療で栄養サポートや口腔ケア、嚥下訓練、運動リハビリを介入することで、早期的に発症を予防することができている。 ・国民的な疾患である高血圧、糖尿病、脂質異常症に対して、法人内の人間ドック・健診センターとの連携を図り、地域一体の生活習慣病管理を行っている。また、肥満は、高血圧、糖尿病、脂質異常症等の生活習慣病をはじめとする、数多くの疾患の危険因子であることから、2019年3月より肥満外来を開設し、医師・看護師だけでなく、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、公認心理士の各分野の専門家によるチームで対応している。 ・消化器病の治療において、岐阜大学から消化器専門医を2017年に3名、2020年に1名を迎え、各分野のスペシャリストが増えたことで、きめ細かい診療・治療対応が可能となり、地域に高度な医療が提供できている。また、内視鏡施行医の増加に伴い、対応件数も増加し、内視鏡検査予約の待ち時間の短縮を図ることができ、地域医療に貢献することが出来ている。 ・へき地医療については、社会医療法人の使命として以前より中濃地区に医師派遣を実施しているが、2021年4月1日にへき地医療拠点病院の指定を受け、高山市国民健康保険久々野診療所へ医師を隔週で派遣し、へき地における医療体制の維持に努めている。 ・小児医療(小児救急も含む)の提供はもちろん、小児発達障害児等の増加に対応するために2021年4月に『こころの発達診療センター』を開設し、医師を中心に、看護師、公認心理士、言語聴覚士などの様々な専門スタッフがそれぞれの専門性を活かして、診断や治療などに対応している。 ・当院のがん治療の診療体制を管理・運用する組織として、がん治療部門、がん相談支援・診療連携部門、緩和部門、がんリハビリテーション部門、がんゲノム医療部門の5部門からなるがんセンターを設置し、患者に適切な治療を提供している。多職種の診療スタッフによる検討会等を定期的に開催し、職員のスキルや知識向上を図っている。また、がん相談窓口の設置やがん患者サロンの開催、パンフレットの設置等を行い、がん患者へのサポートや交流の場を提供している。放射線治療機器や無菌治療室等のがん治療に必要な設備等を有し、さらに2022年1月にがんの温熱療法1種である高周波式ハイパーサーミアシステムを導入し、温熱によるがん細胞の破壊効果だけでなく、外科治療(手術)、化学療法や放射線治療に併用し、それぞれの治療効果を高めている。また2023年2月より放射線治療専門医を常勤医師として1名迎え、4月に放射線治療科を新設し、放射線治療部門の強化を図ることで、がん治療の大きな強みとなっている。2023年4月に呼吸器外科医が2名体制となり、岐阜県内でも呼吸器外科医師を複数名有する数少ない病院のひとつとなった。また、AI技術により医師をサポートする胸部X線画像診断支援ソフトウェアを導入し、より安心できる医療の提供に努めていく。また、このシステムを地域の開業医に開放していく予定である。①呼吸器内科医師(4名)・呼吸器外科医師(2名)の充実、②放射線治療の充実、③AIサービスの開始の3つを柱とした呼吸器センターを新設し、充実した医療が提供できる体制を構築した。 ・外科系医師による手術の実施件数が増加する中、麻酔科医の重要性が高まっている。当院では、常勤の麻酔科医(指導医6名、専門医3名:計9名)により患者が安全かつ適切な手術を受けられるよう麻酔の安全管理と質の向上に努めている。2022年12月より術後疼痛管理チームの運用を開始し、多職種のスタッフによる患者の疼痛管理を実施している。 	○		○	○	○	○	<p>① 病床機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)の見直し</p> <p>当院では、2017年4月に病床機能及び整備が完了した状態である。しかし、圏域内の急性期医療の中心的役割を担うことが求められていることから、将来的には慢性期病床である障害者病棟は、協議の上、近隣の医療機関で対応していただく方針である。現有している慢性期病床は、地域で不足している回復期病床への転換を図り、地域における医療ニーズに応えるべく病床の確保に努める。</p> <p>③ 医療機関の役割(診療科、5疾病5事業等)の見直し</p> <p>○質の高いがん診療の強化</p> <p>がん診療におけるチーム医療体制を整え、診療に係る医師だけでなく、関連するすべての職員が、がん診療に関する知識の向上を図り、地域との連携協力体制(連携バスなど)、がん診療についての相談支援、内視鏡・ロボット手術などの高度な外科手術、IMRT等の放射線療法、化学療法、緩和ケアなどの医療提供を積極的に行っていく。近々での地域がん診療連携拠点病院の指定を目指す。</p> <p>○急性心筋梗塞対策について</p> <p>発症者に対して適切な医療が提供できるよう周辺の消防機関との連携を強化し、高度な救命医療が切れ目なく迅速に提供できる体制を整備していく(救急ワークステーション等)。</p> <p>また、発症予防の点から地域における研修会の開催などを積極的に開催し、地域住民への啓蒙を行い、連携医療機関に対しては、地域連携バスの普及を促進し、連携協力体制の強化を図っていく。</p> <p>○脳卒中対策について</p> <p>当院の特徴を生かして、急性期、回復期等の各期に応じた医療を適切かつ切れ目なく提供できるように、地域との連携協力体制(連携バスなど)の更なる強化を図り、地域内での脳卒中対策の中心的役割を担っていく。</p> <p>○糖尿病対策について</p> <p>糖尿病のスペシャリストが多数勤務(指導医4名、専門医4名:計8名)しており、医療資源が豊富である為、地域の医療機関との連携が可能である。また糖尿病センターを設置し、糖尿病合併症に対する専門的な治療も各診療科の専門医との共同により質の高い治療の提供が可能である。このように専門医とかかりつけ医の連携、さらに各診療科との共同が可能であることから、岐阜圏域での基幹的医療機能をもつ医療機関として、地域内での糖尿病対策の中心的役割を担うべきである。</p>

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し					
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持
37		松波総合病院	笠松町	<p>・放射線診断は、放射線診断専門医(4名)による画像診断を実施しており、各診療科とのダブルチェック体制を完備し、病変の見逃しの回避と適切な運用、評価を可能にしている。また近隣の連携医からの画像検査依頼に積極的に取り組んでおり、その画像診断業務にも携わっている。</p> <p>・病理医3名(指導医1名、専門医1名)により病理診断を実施している。通常の病理組織検査の他、術中迅速病理診断にも対応しており、これにより適切な手術方法が選択でき、医療の質の向上につながっている。当院の剖検件数は、2021年度に全国5位(日本内科学会誌)となり、また、剖検率で全国3位に位置しており、剖検を通して初期研修医教育に力を入れ、日本の医療の進歩に大きく貢献している。</p> <p>【課題】</p> <p>○岐阜圏域南部地域の急性期医療・救急医療について 岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っている。当院は屋上にヘリポートを設置しているが、現状、年間数例の利用しかされておらず、今後ヘリポートの利用件数を増やす必要がある。岐阜圏域において当院は最も南部に位置しており、近隣には羽島市民病院があるので、より関係を深め、急性期医療・救急医療において岐阜圏域南部地域の中心的役割を担っていく病院として一層の機能の充実と体制強化を図らなければならない。</p> <p>○災害医療について 地域災害拠点病院としての責務を果たすため、DMATを2チーム編成しており、災害対応の職員の危機管理意識の向上、「松波総合病院災害対策マニュアル」に基づいた、より具体的な災害実働訓練(災害発生時の各職員の役割分担の徹底)を実施しているが、広域(愛知県含む)における災害訓練を行う必要がある。さらに近年の気候変動による水害の発生が懸念されるため、近くを流れる木曾川の氾濫を想定した水害訓練を継続的に笠松町と共同で実施する必要がある。また、BCP(事業継続計画)の定期的な見直しを図らなければならない。</p> <p>○周産期医療について 岐阜県内の産婦人科・産科医師数は、減少傾向にあるが、当院は岐阜圏域の岐阜南地域における二次周産期医療機関(周産期医療協力病院)としての責務を果たしている。今後、分娩を取り扱う医療機関が減少していく中、二次周産期医療機関の機能を維持する為に、産科医の確保が重要である。また、笠松町育児ほほえみ相談等の産後ケアの対応も行政と協力して対応しているが、更なる充実した周産期医療が提供できる体制づくりを図っていかなければならない。</p> <p>○質の高いがん診療の強化 岐阜県がん対策推進計画を踏まえ、当院が岐阜圏域でがん診療に果たす役割を十分考慮した上で診療実績、人的配置、地域連携、相談支援、人材育成、臨床研究等に関する取り組みを充実していく必要がある。また、我が国に多いがん(肺、消化器、乳、婦人科、泌尿器、血液)について、更なる診療体制の充実を図っていかなければならない。</p> <p>○急性心筋梗塞対策について 急性心筋梗塞の医療提供体制において、当院は心臓CT検査や心臓カテーテル検査などの必要な検査・専門的治療を24時間提供する医療機関(心臓カテーテル治療施設)であり、冠動脈バイパス手術などの外科的な治療も可能な医療機関(心臓外科治療施設)でもある。また心大血管リハビリテーション料(Ⅰ)の届出を行っており、早期治療や再発予防、早期リハビリ、危険因子の管理等が行える体制にあることから、関係機関との連携体制の更なる強化を図っていく必要がある。また、大動脈弁狭窄症の新しい治療法であるTAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)の実施施設として2022年8月に認定され、2022年10月に実施施設認定後、初の症例を行っており(2022年度実施件数:16件)、今後も高度な医療が提供できるよう体制の強化を図っていく必要がある。</p> <p>○脳卒中対策について 脳卒中の医療提供体制において、当院は急性期医療機関であるが、回復期リハビリテーション病棟も持つ医療機関でもある。また、脳卒中の発症後のt-PA療法(血栓溶解療法)などの専門的な治療ができる超急性期医療機関として対応しているが、更なる救急体制の充実を図り、救命率の向上を目指す。また脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症の治療について、数多くの手術件数を重ねているが、更なる体制の充実を図っていく必要がある。</p> <p>○糖尿病対策について 糖尿病の基幹的医療機能を持つ病院(岐阜医療圏7施設・但し岐阜大学病院を含む)および糖尿病合併症に対する専門病院(網膜症、慢性腎不全、心血管障害、末梢血管障害、脳血管障害)として、また多くの糖尿病のスペシャリスト(指導医4名、専門医4名:計8名)を有する医療機関として地域内での中心的役割を担っているが、肥満が原因で糖尿病になる患者が急増しており、肥満外来などの専門性の高い診療を充実していくことが求められる。</p> <p>○精神疾患対策について 後期高齢者社会となる中、入院・外来患者への精神疾患治療体制を充実していかなければならない。入院患者に対しては、せん妄予防や認知症ケアなどの診療体制の充実を図っていかなければならない。また、がん患者をはじめとする緩和ケアを必要とする患者に対して、充実した緩和ケア医療が提供できる体制を確保しなければならない。</p> <p>○在宅医療支援の推進 高齢化社会となり、在宅医療は、重要医療事業の一つに追加され、今後益々重要性が増してくる。当院は在宅療養後方支援病院として、羽島郡医師会と協同して、地域の在宅療養支援診療所及び介護サービス事業所や当法人の訪問看護・介護事業所との連携による急変時の患者の受け入れ強化や在宅医療を担う近隣医師へのサポート体制の充実を図らなければならない。</p> <p>○共同利用の推進 当院では、近年ダヴィンチ、3テスラMRIや360列CT等の高額医療機器を整備し、高度な医療提供体制を整えている。今後、更なる地域の医療機関と密接な連携と機能分担を図り、共同利用を推進することで、無駄な医療費の削減を目的とする医療資源の効率的活用を図らなければならない。</p> <p>○放射線治療について 放射線治療件数は増加しているが、当院の放射線治療装置の寿命が近づいており、放射線治療装置を買い替え、地域がん診療連携拠点病院指定取得のため、より高度な治療が行えるようグレードアップをする予定である。</p>	○	○	○	○	○	<p>また、糖尿病をはじめとする生活習慣病の根本的改善には、適切な食事の摂取と運動能力の向上が重要となっており、生活習慣病患者やその予備軍の方々に、安全で効果のある運動療法を提供する施設として医療法42条施設(疾病予防運動施設)の運営を目指していく。</p> <p>○精神疾患対策について 精神科の常勤医師および認知症認定看護師を中心に、薬剤師、看護師、作業療法士、公認心理士等の多職種によるチームの支援体制で、認知症患者のケアに取り組んでいる。</p> <p>認知症患者ができる限り住み慣れた地域で生活を続けるために、医療と介護の連携を行い、総合的なケアが提供されるように支援していく。</p> <p>また、今後は地域医療・介護施設等および地域住民に向けての啓蒙活動として講習会などの情報発信を行っていく。</p> <p>○在宅医療支援の推進 医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、ケアマネージャー等の多職種が各々の専門知識を生かし、積極的に意見交換や情報共有を行い、在宅療養後方支援病院として、地域の在宅療養支援診療所及び介護サービス事業所との連携を更に深めていく必要がある。また当法人の訪問看護事業所との共同による急変時の受け入れを強化することにより、チーム医療での患者やその家族に対し、質の高い在宅医療を提供できる体制を整備していく。</p> <p>○統合医療の導入 水素療法、アロマ療法、音楽療法、電気療法、漢方、鍼灸などの一般的には補完医療として軽視されがちな医療を取捨選択して、当院の西洋医療の高い知識・技能を補い、より患者が満足する医療の提供を目指していく。</p> <p>④複数医療機関による連携、再編(役割分担の明確化・変更、医療機能の集約化、医療機関の統合、地域医療連携推進法人の設立等)の実施</p> <p>○地域医療連携推進法人の設立予定 岐阜圏域においては、岐阜大学医学部附属病院を中心に、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が地域医療連携推進法人制度の導入も視野に入れ、治験・臨床研究のほか、医薬品や医療機器に関する情報交換や医師をはじめとする人材育成等での連携を行う『岐阜医療圏地域コンソーシアム』を設立し、活動を行っている。</p>	

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
37		松波総合病院	笠松町	<p>【2025年に向けて担うべき役割等】</p> <p>○岐阜圏域南部地域の急性期医療・救急医療について 岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っていく。この中で当院が最も南部に位置していることを踏まえ、3病院の指導・協力を受けながら、岐阜圏域南部地域の急性期医療、救急医療の中心的役割を担っていくべきである。その一環として、消防機関と連携して救急ワークステーションを実施し、「ドクターカー」などで医療が現場へ出ていく体制作りを整え、迅速な救急医療の提供に務める。また、当院の屋上ヘリポートを活用することで、遠隔地からの「ドクターヘリ」による患者搬送を積極的に受け入れることができ、早期医療介入と救命率の向上を目指す。また、2025年には救命救急センターの指定要件となっている救急科専門医等の人員を満たす予定であるため、その際には早急に救命救急センターの指定取得を目指したい。</p> <p>○がん診療について がん治療部門、がん相談支援・診療連携部門、緩和部門、がんリハビリテーション部門、がんゲノム医療部門の5部門からなるがんセンターを中心に患者に適切な治療を提供しているが、今後は、がんに関することによるがん患者の生活や将来への不安、苦痛の緩和といった面の支援にも力を入れ、地域や社会との連携強化を図る必要がある(就労支援等)。また地域がん診療連携拠点病院の指定に向けた準備を進めており、診療体制の整備や診療実績において、指定要件を満たしている。引き続き質の高いがん診療を提供できるよう努めていく。また当院には、遺伝子治療に精通した認定遺伝カウンセラーが1名所属しており、ゲノム医療といった新しいがん診療領域への体制の強化を図る一環として、遺伝カウンセリングを開始していく。</p> <p>○災害医療について 大規模災害訓練等を実施しているが、今後は広域(愛知県含む)での医療・介護施設および各行政との連携を踏まえた災害医療提供の訓練を実施し、DMATをはじめ災害に備えた医療体制の提供およびBCPの更なる構築を目指したい。</p> <p>○へき地医療について 2021年4月にへき地医療拠点病院の指定を受け、社会医療法人の使命としてより広範囲のへき地における医療体制の維持に努めていく。</p> <p>○周産期医療について 岐阜南地域における周産期医療協力病院としての責務を果たしてきているが、産後ケアも含めた対応が必要であり、今後も更に行政(笠松町育児ほほえみ相談)との連携を含めて、より広範囲な地域での産後ケアの拡大に努めていきたい。</p> <p>○小児医療について 引き続き小児医療(小児救急も含む)も提供していくが、更に小児発達障害児等の増加に対して、2021年4月に開設した『こころの発達診療センター』を中心に、医師、看護師、公認心理士、言語聴覚士などの様々な専門スタッフがそれぞれの専門性を活かしたサポート体制の強化を図っていく。</p>							<p>○その他の医療機関との地域医療連携推進法人の設立 当院の法人である社会医療法人蘇西厚生会、美濃市立美濃病院、海津市医師会病院との地域医療連携推進法人設立の検討を行っている。医療圏の垣根を越え、互いに補完し合うことで、急速に進む少子高齢化の中で、安定性と持続性を併せもった効率的な医療提供体制を構築し、それぞれの地域住民の暮らしの安心を実現できるよう図っていく。</p> <p>⑤その他 ○医療機器および病床の共同利用の推進 地域の中心的医療機関として、開放型病床あるいは放射線治療装置やPET装置等の共同利用を目的とした高額医療機器を整備し、共同利用施設として地域の医療機関との密接な連携と機能分担の促進、医療資源の効率活用を図り、地域医療水準の向上を推進していく。</p> <p>また一方で、圏域内で同様の高額医療機器が多数導入されており、この点においては、無秩序な導入を避け、共同利用の促進などによってその利用の効率化を図らなければならない。その為、高額医療機器の導入については、圏域内で協議すべきである。</p>	
38		福富医院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 岐阜市内で小児が入院できる病院は4病院である。当院は有床診療所であるが小児科医が常駐しているため、小児にとっては5番目の施設である。小児の一時的な急性期の入院できる医療機関としての役割を果たしている。また地域の高齢者においても一時的な感染症の悪化時にも対応している。</p> <p>【課題】 看護師の人材確保に苦慮している。休日にも勤務が振り分けられるため相対的な看護師不足である。地域的に北部にあるため看護師の人材確保が課題である</p>	小児の感染流行時は大きな病院であっても癌や慢性の疾患の入院が多く、急性期の病床には限りがある。そのため感染流行期には他の小児科からの紹介入院もある。そのため有床診療所であっても開放型の病床を設置し、地域の診療所に役立つ診療所としての役割を担う							○ 病床に対する医療ニーズは大きいものの、病床の増床が困難であるため
39		永田医院	岐阜市	<p>【現状、特徴】 医師高齢に伴い、永年入院治療は中止中。</p> <p>【課題】 数年以内の休業予定検討中。</p>	永年、配置医としての地域福祉施設入所者医療や公的感染症対策の予防事業に協力中。暫く、今後も出来れば継続したい。							○ 入院事業は中止。医療職の高齢化。
40		服部耳鼻咽喉科	岐阜市	<p>【現状、特徴】 地域医療</p> <p>【課題】 当院は耳鼻咽喉科の特に専門的な手術や検査を行っている施設である。高齢の患者数が増加していることから、その件数は今後も変わりが無いと思われる。それを維持するためには看護婦や検査技師などのスタッフの育成が必須であるが、なかなか人材が集まらないのが現状である。よって今後、新たな人材を確保することが課題である。</p>	特に睡眠時無呼吸症候群の検査と診療、高齢者に対する補聴器外来などの分野で専門性の高い医療を提供する。							○ 新型コロナウイルス感染症によって入院患者数が減少したことにより病床数の見直しを検討したが、次第に以前の状態に戻りつつある

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
41		岐阜泌尿器科	岐阜市	【現状、特徴】 病棟閉鎖中です。 【課題】 築約50年経過し設備等が基準を満たさないおそれがある。	専門性を生かし、短期入院治療に特化(尿路結石等)を行うため、新医院の検討をしてゆきたい。						○	資金問題があり、現状病床機能の見直し、変更も先送りさせていただきます。
42		医療法人令明会 ゆりレディースクリ ニック	岐阜市	【現状、特徴】 入院については産科医療に特化している 【課題】 コロナによるお産数の減少	地域の産科医療に貢献						○	地域の状況、ニーズを踏まえて、現状維持に努めていく
43		医療法人内田眼科	岐阜市	【現状、特徴】 当院では、白内障手術や硝子体注射を要する患者さんを入院でケアすることがある。 【課題】 対象の患者さんが高齢の方が多く、又、視力が悪いため、看護師が付き添い転倒防止など気を付けている。	今後高齢者の割合が増加すると思われ、QOLの改善のため、白内障手術の増加が見込まれる。一部の入院が必要な方のために病床を維持する役割がある。						○	今後国の方針で白内障手術が外来でのみ行われる可能性もあり、症例数は増える見込みだが、入院数は増える見込みは少ないと思われるため。
44		医療法人誠優会 石原産婦人科	岐阜市	【現状、特徴】 2年前に新病棟移転に伴い分娩数急増のため増床も視野にしている。 【課題】 近隣地域の産婦人科閉院に伴い、妊婦さんのみならず、婦人科疾患の患者さんが増加しており現在の医師数、部屋数では対応困難なこともあり。	できる限りスタッフおよび旧病棟の活用により増床も考えてはいるが、財務的な問題や医師の確保は難しいのが課題						○	増床や医師の補充などをしてはいきたいが、現状は財務的な問題もあり現状維持が精一杯
45		芥見診療所	岐阜市	【現状、特徴】 地域に根差した医療と介護事業所との連携 【課題】 現在休棟中のため、今後の計画が必要になってくる	現在休棟中のため、今後の計画が必要になってくる						○	検討中
46		大橋・谷 整形外科	岐阜市		未回答							
47		レディースクリニックまぶち	岐阜市	【現状、特徴】 人工妊娠中絶 【課題】 避妊指導	更年期障害・月経困難症						○	院長が高齢のため
48		佐久間眼科医院	岐阜市	【現状、特徴】 白内障手術時の日帰り・一泊入院で使用している 【課題】 無床診療所への変更も考えているが、もうしばらく有床を続ける予定です。	無床診療所への変更も考えているが、もうしばらく有床を続け予定	○	○					無床診療所への変更を予定している
49		あいレディースクリニック	岐阜市	【現状、特徴】 なるべく自然にこだわったお産 【課題】 不妊治療の充実	少子化、産婦人科医不足の中で、不妊治療と分娩施設の維持発展						○	分娩施設が減少していく中で、安全で自然なお産を提供
50		医療法人社団光 和会 山内眼科	岐阜市	【現状、特徴】 日帰り手術が主流のなか、一泊入院をしてもらい手術後の経過観察をして、患者に安心して帰宅してもらおう。 【課題】 医師の高齢化で後継者不在で、25年には手術やっていない可能性がある	検討中						○	病棟使用する手術やめるため
51		大塚レディースクリニック	岐阜市	【現状、特徴】 産科施設のため特になし、分娩時やその後の入院がメインとなる 【課題】 特になし	少子化に向けて、分娩数の維持および増加に努める						○	分娩施設の減少に伴い、現在と同等のベッド数を維持するのが重要なため

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
52		宮崎レディースクリニック	岐阜市	【現状、特徴】 産婦人科として、地域の女性の疾病、出産に対応している 【課題】 主として正常分娩の患者さんを対象としているので、感染症の入院は不可、高齢者の慢性期の入院も受け入れられない	分娩数の減少に伴い、急性期ではなく、感染症ではない内科疾患の患者の入院受け入れを検討する			○	○			異常妊娠・突発的な異常分娩・新生児仮死などの救急を要する場合は、センター的な役割の医療機関へのスムーズな受け入れ体制の確立、連携が重要である
53		くまざき内科	岐阜市	【現状、特徴】 医療必要度が高く、長期療養が必要な方への医療提供。 【課題】 人員の確保と人件費の高騰。	医療必要度が高く、長期療養が必要な方への医療提供。						○	地域のクリニックとして求められている役割を継続していく方針。
54		高橋眼科医院	岐阜市	【現状、特徴】 開設以来、地域に根差した医療サービスを提供しているクリニックです。一般診療を行うほか、白内障の日帰り手術や小児の近視進行の予防治療、斜視・弱視外来などの治療に力を入れています。 【課題】 看護師不足	岐阜市にある眼科クリニックです。患者さんのかかりつけ医としてコミュニケーションを重視し、分かりやすい診療を目指します。白内障・緑内障・斜視・硝子体手術も行っており入院設備も整っています。近視進行予防などの予防医療・アイフレイルにも取り組みます。						○	現状のままで問題ないないため
55		桑山眼科	岐阜市	【現状、特徴】 ①緑内障患者の失明の予防に努めている。 ②加齢による白内障で視力低下する患者の治療に努めている。 ③スタッフの半分以上が10年以上勤務しているため、かかりつけの患者様がコミュニケーションを取りやすい環境にある。 【課題】 開院して30年経つため、建物の構造上(土足の脱ぎ履き、車椅子の出入り口等)高齢者や身障者の方々がもっと利用しやすい環境にできるようにしたい。	①視野狭窄による失明予防に努める。 ②糖尿病患者の食事指導の導入。						○	・病床を利用するのが手術の時のみであり、手術も日帰りなので病床使用時間は数時間程度。 ・白内障手術時の高齢患者様の休息等に必要だから。 ・患者数は現状維持の為。 以上のことから現状維持で問題ないと判断。
56		基生会 おおのレディースクリニック	岐阜市	【現状、特徴】 産科施設 【課題】 医師確保、施設の老朽化	出生数の減少してるなか、不妊治療に力をいれ月あたり妊娠30人を目標に取り組む						○	地域の状況、ニーズを踏まえて、現在の医療機能の維持に努める。
57		野川眼科医院	岐阜市	【現状、特徴】 白内障手術を主とした内眼手術を毎週火曜日に行っている 【課題】 稼働率、採算性、人手不足、コロナ感染対策	短期滞在手術等基本料1の算定を考えるが、なお独居老人等の白内障手術の際、一泊入院を希望するものがあり、有床診療所として継続するか思案中						○	短期滞在手術等基本料1の算定を考えるが、なお独居老人等の白内障手術の際、一泊入院を希望するものがあり、有床診療所として継続するか思案中
58		しま医院	岐阜市	【現状、特徴】 休床中 【課題】 建物の老朽化、人材の高齢化、人手不足	未定						○	建物の改修、人材の高齢化、人手不足のため休床
59		はっとりクリニック	岐阜市	【現状、特徴】 睡眠時無呼吸症候群の検査用に運用しています。 【課題】 特になし	睡眠時無呼吸症候群の検査用に運用 予定						○	睡眠時無呼吸の検査として運用

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
60		岐阜メイツ睡眠クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 重度の睡眠時無呼吸症候群や睡眠中に多発するてんかん発作、うつ病やナルコレプシーなどの重篤な睡眠障害を伴う患者に対して、終夜睡眠ポリグラフィーや反復睡眠潜時試験(MSLT)等により診断を行い、病状の早期安定化に向けた医療を提供している 【課題】 増え続ける睡眠障害患者の受け入れ	深夜労働や交代勤務に従事する人が増え、すべての事に24時間対応が迫られる現代社会において、今後も睡眠障害患者の診療は重要な役割を果たす						○	当院は専門性が高く、今後も同様の役割を果たしていく
61		矢嶋小児科小児循環器クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 小児在宅医療での医療型短期入所目的の病床であり、一般診療における入院病床ではない	現状では上記用途のみで、一般入院の扱いは検討していない						○	小児在宅医療に特化しているので病床は医療型短期入所目的
62		松原医院	岐阜市	【現状、特徴】 地域医療の確保・終末期の医療、介護の提供 【課題】 職員の確保・施設の老朽化・後継者問題	終末期の医療、介護の提供					○	○	職員不足が解決すれば現状維持をしたい
63	変更	松岡整形外科・内科リハビリテーション	岐阜市	【現状、特徴】 岐阜市を中心に、医療・介護・福祉・保育サービスを展開し、地域の人々が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、愛される施設づくりを我々のライフワークとして邁進しています。なかでも運動器系統の機能障害と形状変化の予防と治療に力を入れています。 【課題】 地域の高齢化により腰痛、膝、脊椎等整形外科分野対象の健康寿命を永くするためにも痛みを取り除く手術は必須になってきます。今は簡単にできる手術も増え、リスクも少なくなっており、今後は手術件数も増える見込みの為、2023年11月より一般病床を1床から13床に(療養病床を18床か6床)変更して地域医療に貢献する所存です。	高齢者に多い骨折や脊椎の手術を積極的に行い、入院治療とリハビリを提供することで在宅復帰や介護サービスに結び付けていく。 特に在宅復帰後も馴染みのある地域で暮らしていけるよう地域医療の発展に貢献する役割を担う。	実施済み						総病床数19床のうち、2023年11月より一般病床を1床から13床に、療養病床を18床から6床変更
64		阪野クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 岐阜県では珍しい睡眠障害を専門に診療している診療所です。県外の基幹病院からも紹介されています。 【課題】 睡眠障害で悩む人が多くなり、精密検査の待ちが長くなっています。今後、、スムーズに検査が出来る体制が必要です。	子供の睡眠障害を診察する病院が少ないので、小児の睡眠医療を拡充します。同時にメンタルヘルス不調の不眠を解消して、社会復帰できるようにしたいです。						○	睡眠障害の患者が多い状況下の早期安定化を提供していきます。
65		高橋産婦人科	岐阜市	【現状、特徴】 体外受精等、生殖医療を中心とした地域の少子化対策 【課題】 地域の少子化に伴う出生率の低下を少しでも改善出来るよう当院に出来る限りの現状を維持しつつ生殖医療に邁進する。	少子化問題を真摯に受け止め、より一層の精進に努める。						○	地域の少子化に伴い、生殖医療(体外受精・人工授精等)を求めるニーズに答えていきたい。
66		医療法人高井外科	岐阜市	【現状、特徴】 組織的な医療経営を行い、且つ、化学的外科医療の設備その他を充実すると共に、適正なる医療を行う 【課題】 社会の変化に対応すべき、合理的ない医療経営を行うこと	看護婦や医療人の養成を行う						○	患者さんのニーズが同じなため、現状維持を行う

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
67		古田産科婦人科 クリニック	岐阜市	<p>【現状、特徴】 駅前の比較的通院し易い立地に恵まれ、体制の変化に伴い最近15年間の患者数は増加傾向にあります。但し、近年の少子化の影響は大きく、平成27年(西暦2015年)12月末に分娩業務のみ停止しております。不妊治療で望みが叶い妊娠された患者や幸運にも自然妊娠された患者様につきましては、夫婦のご希望、ご家庭の事情等を良く伺い、ご希望に沿った分娩施設選定の手助けを行っております。</p> <p>【課題】 妊婦さんの安心の為に早期から分娩予約のお手伝いもしております。その上で希望者には妊婦健診を、約30週前後まで健診をしております。周産期は何かおこっても不思議ではない為、必要時は総合病院に転院手配ができ、安心して出産を迎えられるように万全なバックアップ体制を維持することが課題であると考えております。また患者数の増加に伴う環境の変化にも柔軟に対応できる体制を常に整えておくことも当院の課題であります。</p>	<p>コロナ関連等、予期せぬ患者数の増加或いは仕事量の増加に慌てることもなく、柔軟に対応ができる環境を整備しつつ維持していきたいと考えております。現在、高度生殖医療をはじめとする不妊治療や婦人科疾患の患者数が増加しております。しかしどちらの患者も高齢化が進んでおります。是まで以上に内科系を始め他の医療機関との連携や健康維持の啓蒙活動の役割も担う必要性が高あると考えております。</p>						○	不妊治療や婦人科疾患の患者数は大きく変化しないと考えられ、治療(手術)も引き続き実施し、現状の病床機能を維持していくことになると考えます。其の為大きな変更予定はありません。
68		操健康クリニック	岐阜市	<p>【現状、特徴】 特になし</p> <p>【課題】 特になし</p>	<p>安心、快適な生活を受診者に送っていただくため、人間ドック、健診を通じて、病気の早期発見、早期治療を引き続き目指す。</p>						○	今迄通り、大学病院、市民病院等の大規模病院との連携を強化する。
69		田中整形外科	羽島市	<p>【現状、特徴】 主に手術時の1日、2日の入院用として病床を持っている。</p> <p>【課題】 地域においては外来手術、1日入院手術の医療機関は存在価値があると思うが、現状としては手術が少ないのでスタッフの増員等の予定もないし、これ以上の対応をする予定もない。</p>	<p>地域においては外来手術、1日入院手術の医療機関は存在価値があると思うが、現状としては手術が少ないのでスタッフの増員等の予定もないし、これ以上の対応をする予定もない。</p>						○	当院のような形態の病床を救急医療を担っている病院と同様に急性期病床に分類することに違和感を感じているが他に分類できないので急性期と分類している。本来は他の分類項目を作り、本来の急性期病床を正確に把握すべきと思う。
70		アイリスベルクリ ニック	羽島市	<p>【現状、特徴】 当院では、周産期医療のプロフェッショナルとして、すべての社員が協力し合い、すべての患者様に対して最新の知識、最大の安全性、最善の倫理観をもって、常に優しく誠実に診療にあたり、社会に広く信頼され、人々の健康と幸せに大きく貢献ができる様、真摯に研鑽と努力を続けてきました。</p> <p>◆診療実績 月平均分娩数=21.0件(2022年1月~6月実績)</p> <p>【課題】 分娩再開から約1年であり、患者を受け入れる余力がまだ十分あるため、地域医療に更なる貢献をしていきたいと考えております。</p>	<p>分娩を継続していき、地域の周産期医療を支えていきます。</p>						○	周産期医療機関であり、特段見直しを必要としないため。
71		あさこう眼科クリ ニック	羽島市	<p>【現状、特徴】 白内障手術後の治療</p> <p>【課題】 特になし</p>	<p>現在と同様の役割を担う。</p>						○	眼科クリニックであるため、現在と同様の機能を継続する必要があると考えられる。
72		たかはし眼科クリ ニック	羽島市	<p>【現状、特徴】 眼科一般診療</p> <p>【課題】 眼科一般診療のため、これまで通り外来を中心とした診療を行う</p>	<p>眼科一般診療</p>						○	眼科一般診療のため、手術後の回復期のみ病床を利用している

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
73		各務原第一外科	各務原市	【現状、特徴】 高次医療機関が手術適応や高度な医療の適応外とする受け入れ先のない骨折者等の入院や施設入所中の高齢、超高齢者の肺炎等急性期医療の受け入れあるいは看取りをおこなっている。 【課題】 人員、能力の不足	もともと病床数は少なく、現状のとおり医療をおこなうしかない						○	8床しかない有床診療所に機能を問うのは意味がないと思います。急性期であり看取りであり、病床機能を振り分けるほどの規模もないのが現状。
74		医療法人おると会 榑原整形外科	各務原市	【現状、特徴】 脊椎・脊髄を専門とする手術や、事故・労災・外傷等の救急の受け入れ、治療に対応できる施設。疼痛管理を必要とする安静入院～機能回復訓練を実施。 【課題】 急性期の治療(手術を含む)を自施設にてどのレベルまで対応していけるのか検討中	現状維持(整形外科専門医による地域急性期医療の充実)						○	整形外科専門医による地域急性期医療の充実
75		フェニックス在宅支援クリニック	各務原市	【現状、特徴】 複雑な病態を持つ患者を主とし、医療提供をしている。今後を考えたときに施設を希望され入院されてくる患者も多い。看取りや認知症まで対応しておりその中でも在宅復帰を常に検討している。 【課題】 リハビリを提供することでさらに能力向上が図れると思われる患者も多いがリハスタッフの人員不足がある。	今後さらに複雑化する医療ニーズや家族ニーズに対応し、今後の療養先をリハビリの進捗具合を確認しつつ適切に検討していく医療機関であり続けたいと考えている。						○	これまでの実績を見ると地域の中で機能分化をしっかりとしており、評価されている医療機関だと自負している。現状維持とは回答したが今後の社会のニーズに適切に柔軟に対応していきたい。
76		フェニックス総合クリニック	各務原市	【現状、特徴】 外来においては様々な病態の患者が来院しており地域のかかりつけ医としての機能を発揮できていると自負している。病棟においては整形疾患を主としリハビリ機能を特色としており、高い在宅復帰率を維持している。 【課題】 今後さらに増えるであろう在宅系の患者について地域の診療所の先生たちとさらに密に連携を取り合っていきたい	予防医療の推進のための検診や人間ドックをこれからも推奨し、疾病の早期発見、早期治療を目指します。また関連介護施設からの状態変化のある患者を早期にチェックし必要に応じメンテナンスの入院やリハビリを提案し地域包括ケアシステムの基幹となる医療機関を目指す						○	これまでの実績を見ると地域の中で評価されている医療機関だと自負している。現状維持とは回答したが今後の社会のニーズに適切に柔軟に対応していきたい。
77		石田眼科	各務原市	【現状、特徴】 眼科 【課題】 特になし	眼科領域専門のクリニックとして、白内障、緑内障、網膜硝子体、眼形成(まぶた・涙道)、小児眼科(斜視・弱視)それぞれの専門の分野に対応していく。						○	医療ニーズに対して現状対応できていると考え、今後も医療機能を提供していく。
78		小林内科	各務原市	【現状、特徴】 地域医療の貢献、在宅診療への貢献 【課題】 有床診療所として、地域密着の医療機関の役割を果たすことへの、行政からの補助、施設基準等の緩和、在宅診療患者への点数制度への緩和が必要となってくるのでは？ 軽症～中等症患者対応医療機関(急性期、回復期、慢性期)機能としての役割(転院、在宅機能)の充実体制。病院→有床診→自宅・介護施設等の体制充実、ACPの患者への充実体制。	地域医療への参加として、療養病床の維持や在宅診療の充実へ。						○	有床診療所として、地域密着の医療機関として、現状の機能を維持することが必要。
79		横山産院	各務原市	【現状、特徴】 現在の病床数にて大きな問題なく対応しています 【課題】 医療資源に限られる中、緊急時に対応できるよう施設間での連絡を密にしていけることが必要と考えました	他施設からの受け入れ可能な症例がある場合は、当院の病床の利用などを考慮していく。そのために自施設の受け入れ体制を構築していく必要がある						○	現状のまま対応し、上記の受け入れの強化や他施設との連携を構築を行っていく方針を考えています
80		医療法人寿康会 村上医院耳鼻咽喉科	各務原市		未回答							

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
81		永田産婦人科	各務原市	【現状、特徴】 地域における主要な有床産婦人科施設 【課題】 少子化進展の状況下でも、地域の産婦人科医療を維持していくこと	経営効率化を図りつつ、地域への医療サービスレベルを維持する						○	地域の産婦人科医療を維持していく必要がある
82		宇土医院	瑞穂市	【現状、特徴】 手術 経過観察 【課題】 なし	手術 経過観察						○	特に問題なし
83		佐竹整形外科	瑞穂市		未回答							
84		医療法人清光会 名和内科	瑞穂市	【現状、特徴】 ・自院のかかりつけ患者の受け入れ。 ・地域の介護施設からの受け入れ。 【課題】 特になし	地域の方々が安心して通院できる身近な医療施設として、ご利用者様に納得して頂ける医療の提供を心掛ける。						○	地域包括ケアシステムにおける医療機関としてこれまで通り役割を果たしていきたい。
85		堀部クリニック	本巣市		未回答							
86		サンライズクリニック	岐南町	【現状、特徴】 消化器内科、循環器内科、放射線科を中心に、生習習慣病をはじめ、様々なプライマリーケアに対する診療を行っている。また、人間ドックをはじめとする健診業務にも力を入れ、早期発見、早期治療に取り組んでいる。また、訪問診療にも取り組んでいる。 【課題】 予防医学、早期発見・早期治療が重要視される中、人間ドック、各種健診、及び高度な医療機器を用いた精密検査により、治療に取り組む。さらに病状によっては、専門性の高い連携医療機関に紹介し、治療に繋げる。また、引き続き訪問診療に注力する。	予防医学の観点から、人間ドック、各種健診業務(施設・バスによる巡回)に、引き続き力を入れて取り組み、早期発見・早期治療に繋げる。また、近隣の連携医療機関とは、引き続き連絡を密にし、地域に根付いた医療機関を目指す。						○	月に1回程度、大腸ポリープの切除手術を行っており、手術当日患者を入院させるため病床を使用している。
87		赤座医院上印食 診療所	岐南町	【現状、特徴】 地域のかかりつけ医 専門は内科、呼吸器アレルギー科で睡眠時無呼吸症候群の診断、治療、気管支喘息の治療に力を入れる。 在宅医療も行っている。 【課題】 大病院との移行、関連 処方が多様化における院内処方の限界	かかりつけ医機能重視 在宅医療、認知症対応、特養ホームの嘱託医、学校医、産業医の役割が増すであろう。						○	バランスはとれている。 特養ホームの嘱託医、産業医、学校医、地域医師会理事としての役割もある。
88		こめの医院	笠松町	【現状、特徴】 感染症に対してすばやく診療治療を行い、生活習慣(食事)の改善を指導 【課題】 職員確保	感染症に対してすばやく診療治療を行う。生活習慣(食事)の改善の指導		○					人員確保と施設整備に問題があり、これらの問題が解決でき次第、回復期又は慢性期で稼働予定

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し					
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持
89		まつなみ健康増進クリニック	笠松町	<p>【現状、特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当クリニックは、2002年に以前から稼働していた松波総合病院附属診療所から外来部門を強化・発展させ、人間ドック・健診センターを備えるクリニックとして稼働している。また、患者が通院中に症状が悪化し、入院加療が必要となった場合には、松波総合病院に全面的にバックアップしてもらえる体制を整えている。 ・標榜診療科は、18診療科を届出している(2023年5月時点)。 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液・腫瘍内科、腎臓内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、肛門科、形成外科、放射線科、小児科、皮膚科、リウマチ科、精神科 ・がん診療を当クリニックと松波総合病院でそれぞれ行なっていたものを2023年5月より松波総合病院で一括管理し、より効率的で安全・安心ながん医療を提供できるよう体制を整備した。 ・当クリニックが専門性の高い外来診療でかかりつけ医を後方支援することで、お互いの機能の役割分担と連携を行っている。また当クリニックは、多くの専門医が属しており、他疾患の専門家へのアクセスも容易で、特に併存症の多い高齢者の診療に適切な医療を提供することが可能である。 ・地域住民への食事療法、運動療法を含めた生活習慣の改善を通じて健康そのものを増進することに主眼をおいた治療を行い、致命的な疾患をできる限り引き起こさないよう配慮している。 ・当クリニック3階には、人間ドック・健診センターを設置しており、最新の医療機器と充実したコースを整え、専門スタッフを配置している。 ・院内感染対策は極めて重要であり、クリニック全体として組織的に院内感染対策を十分に講じることが不可欠である。その為、クリニック長のもと院内感染対策室(医師(院内感染責任者)、看護師、薬剤師)を設置し、院内感染防止マニュアルを作成、指針を示すとともに、毎月定期的に松波総合病院と共同して院内感染対策委員会を開催している。また院内感染対策室による週1回の院内ラウンドを実施し、院内感染防止対策の実施状況の把握・指導を行っている。新興感染症・再興感染症(発熱患者)に対応する為に敷地内に発熱外来専用施設を設置し、患者同士による感染防止にも努めている。 <p>【課題】</p> <p>松波総合病院と協力の下、下記の課題について協議を行い、当クリニックの役割について再検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性心筋梗塞対策について ・糖尿病対策について ・小児医療について ・認知症対策について ・在宅医療の推進 ・待合室の混雑解消について(診療時間、予約方法の見直しによる院内滞在時間の短縮) <p>【2025年に向けて担うべき役割等】</p> <p>松波総合病院と協力・協議を行い、当クリニックが担うべき役割について対応していく。</p> <p>○かかりつけ医について</p> <p>外来患者の減少する環境の中、かかりつけ医として健康に関する相談に対応し、最新の医療情報を熟知し、必要に応じて隣接する松波総合病院をはじめとする専門医、専門医療機関を紹介し、地域医療を支える診療所としての役割をさらに拡大していく。</p> <p>高血圧症、糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病については、専門医を配置し、継続的に治療・指導を行っているが、更なる体制の強化を図っていく。病気の予防や早期発見、早期治療を可能にするために、人間ドック等への健診受診にも注力していく。</p> <p>○予防接種について</p> <p>多くの方が予防接種を受けることで感染症の蔓延化を防ぐことができる。当クリニックでは、小児から高齢者を対象とした各種の予防接種に対応しており、対象疾患の発症あるいは重症化の予防に務めている。</p> <p>○小児医療について</p> <p>引き続き小児医療(小児救急も含む)も提供していくが、更に小児発達障害児等の増加が考えられ、医師だけではなく臨床心理士によるサポート体制強化を図っていく。</p> <p>○認知症ケアについて</p> <p>増加傾向にある認知症患者の医療サポートについて、認知症患者ができる限り住み慣れた地域で生活を続けるために、当クリニックもかかりつけ医として、認知症の早期発見、健康管理や疾患への対応を行い、介護サービスなどと連携し、総合的に関わっていく。</p> <p>また当クリニックの認知症サポート医は、かかりつけ医への助言などのサポートを行い、地域における認知症医療・介護などがスムーズに連携し、機能するよう注力していく。</p> <p>○在宅医療について</p> <p>在宅医療の需要は、高齢化の進展などにより大きく増加する見込みで、需要の拡大に対応していく必要がある一方、近年、医師の高齢化等の問題により医師不足が深刻化しており、在宅医療における医師の負担は多くなりがちである。在宅医療に携わる医師の負担を軽減するために、当クリニックにも在宅医療担当医師を配置し、患者やそれを取り巻く環境を察知しながら、質の高い医療サービスの提供に努めていく。</p>			○	○	○		<p>①病床機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)の見直し 人間ドック専用病床として10床有しているが、『急性期』病床として維持していく。</p> <p>②病床数の見直し 当院の人間ドック・健診センターでは、精密な検査を利用者に提供するために1泊2日コースを設けており、利用者のニーズに応える為、病床数を維持していく。</p> <p>③医療機関の役割(診療科、5疾病5事業等)の見直し 現在、各診療科が垣根を越えて共同体制を敷いており、チーム医療として提供している。国民的な疾患である高血圧、糖尿病、脂質異常症に対しては、人間ドック・健診センターとの共同を図り、地域一体の生活習慣病管理を行うことを目標としている。他医療機関からの紹介や入院診療については、松波総合病院で対応し、その後の継続的な治療については、当クリニックでフォローアップをしているが、患者が外来治療で快適な生活が送れるようにサポートできる連携協力体制の更なる強化を図っていく。</p> <p>④複数医療機関による連携、再編(役割分担の明確化・変更、医療機能の集約化、医療機関の統合、地域医療連携推進法人の設立等)の実施 ○地域医療連携推進法人の設立予定 岐阜圏域においては、岐阜大学医学部附属病院を中心に、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が地域医療連携推進法人制度の導入も視野に入れ、治験・臨床研究のほか、医薬品や医療機器に関する情報交換や医師をはじめとする人材育成等での連携を行う『岐阜医療圏地域コンソーシアム』を設立し、活動を行っている。当クリニックは、松波総合病院の関連組織として活動及び支援を行っている。 ○その他の医療機関との地域医療連携推進法人の設立 当クリニックの法人である社会医療法人蘇西厚生会、美濃市立美濃病院、海津市医師会病院との地域医療連携推進法人設立の検討を行っている。医療圏の垣根を越え、互いに補完し合うことで、急速に進む少子高齢化の中で、安定性と持続性を併せもった効率的な医療提供体制を構築し、それぞれの地域住民の暮らしの安心を実現できるよう図っていく。</p> <p>⑤その他 ・岐阜圏域南部の地域医療を維持するために、現在標榜している診療科を維持しつつ、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)における認知症予防として老年内科を新設し、同一法人の松波総合病院と総合的に対応していく。</p>

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
89		まつなみ健康増進クリニック	笠松町					○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療の提供体制に求められる医療機能として①退院支援、②日常の療養支援、③急変時の対応、④看取りがある。当クリニックの医師は、特に②に留意し、多職種共同による患者や家族の生活を支える観点からの医療の提供、緩和ケアの提供、家族への支援を行う必要があり、体制を整えていく。 岐阜圏域南部に下記のような専門的な医療を提供する施設がないため、診療科を新設し、同一法人の松波総合病院と協力して、地域に医療を提供していく。 (移植外科、甲状腺内科、アレルギー科) ・新興感染症・再興感染症(発熱患者)の対応については、来院者、病院職員を感染者から守りつつ、発熱患者対応を迅速に行うために、敷地内に4個室からなる3基の「待合UNIT」(12室の個室待合室)、陰圧診察室の「診察UNIT」、CT検査用の「CT-UNIT」からなるGIFU CUBEを設置し、発熱外来として運用している。対応患者数は1日10人前後である。現在の感染症が終息するには、数年を要すると考えられ、引き続き円滑な運用をしていく。
90		羽島クリニック	笠松町		未回答							
91		さとうファミリークリニック	北方町	【現状、特徴】 地域医療を担う上で病床が必要である。 【課題】 特になし	現在内科・整形外科・皮膚科・小児科といった複数の診療科の診察を行っており、これらを地域のニーズに合わせ、今後も安定的に提供すること。						○	高齢者の看取りや、病院での加療までは要しない症状に対する入院治療といった、現在行っている医療提供は引き続き必要である。
92		北方医院	北方町	【現状、特徴】 休床中 【課題】 いずれ入院を再開したいと思っておりますが、諸般の事情により再開の目途がたっておりません。	いずれ入院を再開したいと思っておりますが、諸般の事情により再開の目途がたっておりません。					○		いずれ入院を再開したいと思っておりますが、諸般の事情により再開の目途がたっておりません。
93		いとうレディースケアクリニック	北方町	【現状、特徴】 特記事項無し 【課題】 特記事項無し	病診連携にも力を入れ、引き続き地域の産科・婦人科医院としての役割を果たしていく。						○	地域における産科・婦人科医療のニーズは高く、現状の医療を引き続き提供していく。